

中山道太田宿地区

(岐阜県美濃加茂市)

- 計 画 期 間 平成17年度～平成21年度
- 面 積 317ha
- 交付対象事業費 837百万円
- 市人口 55,305人 (地区内人口 11,796人)

ポイント 地域住民で組織する団体が主体となって市民交流と観光・商店街の活性化を目指すまちづくり

地区概要 重要文化財旧太田脇本陣林家住宅を中心とした観光拠点と市民交流の場を整備することにより、地域住民が主体となって取り組むまちづくりを実現し、観光及び商店街の賑わいの再生を図る。

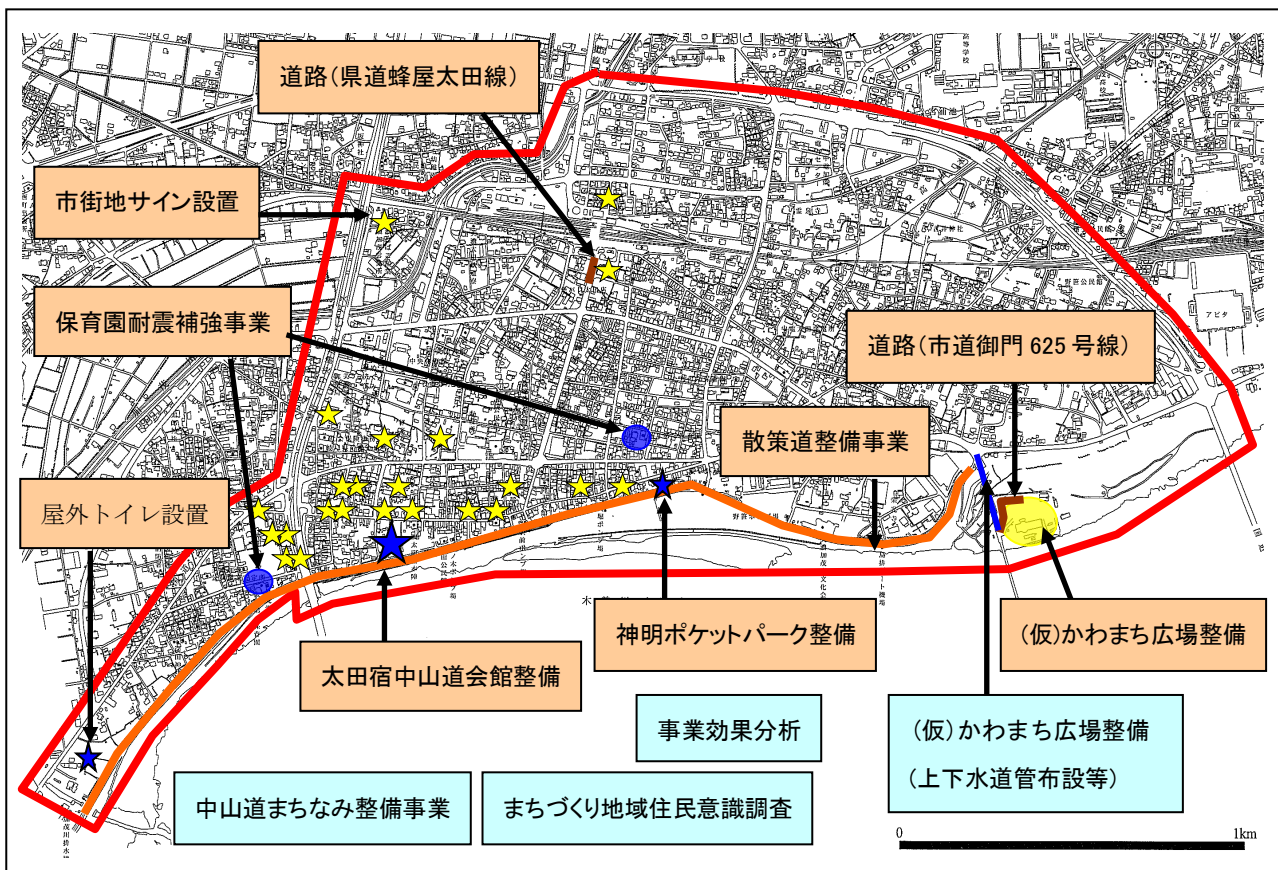
目 標 中山道太田宿を中心としたエリアの道路と施設の一体整備を行うことにより歴史と文化にふれあうまちづくりを推進し、地域住民の交流と観光及び商店街の活性化をめざす。

指 標 観光と市民交流の拠点を整備することにより、来訪者数の増加と市民活動の活性化を目標とした。

中山道太田宿来観光客数	129,000人/年 (H15) → 224,700人/年 (H21)
修景工事施工件数	5件 (H15) → 11件 (H21)
散策道利用者数	55,000人/年 (H16) → 238,000人/年 (H21)
ボランティア登録者数	806人 (H16) → 1,647人 (H21)

事業内容 基幹事業 (721百万円) → 道路 (2路線、延長177m)、(仮)かわまち広場整備 (24,959㎡)、神明ポケットパーク整備 (1カ所)、市街地サイン設置 (23カ所)、耐震補強事業 (保育園2カ所)、散策道整備事業 (延長962m)、屋外トイレ設置 (1カ所)、太田宿中山道会館整備 (2,064㎡)

提案事業 (116百万円) → まちづくり地域住民意識調査、事業効果分析事業、中山道まちなみ整備事業、(仮)かわまち広場整備事業 (上下水道管布設等)



地区の現況と課題

この地区には、かつて中山道宿場町である太田宿が置かれ、その当時の面影を残す旧太田脇本陣林家住宅が現存し、重要文化財に指定されている。近年の観光形態の変化や近郊の商業化により、減ってしまった観光客数を呼び戻し、かつての活気を取りもどすことが課題である。

提案事業の特徴

まちづくり地域住民意識調査

市民主体のワークショップの開催と地域住民の意識調査を行い、事業効果を高める施策の検討やNPOの育成等市民参加型の事業展開を図る。

中山道まちなみ整備事業

中山道太田宿の町並みの保存と修景を目的に実施される地区内建物の修復等に対し補助金を交付し、地域住民の意識啓発と観光客の増加及び商店街の活性化を図る。

(仮)かわまち広場整備事業

日本ライン下り乗船場のある敷地を交流広場として再整備し、太田宿中山道会館とを周遊する新たな観光散策路を創出することにより、観光拠点としての付加価値を高める。

まちづくりの効果、持続的取り組み

太田宿中山道会館整備をきっかけに地元住民で組織されたNPO法人宿木が同施設の指定管理者となり、歴史的文化遺産を活用した様々なイベントを年間を通じて企画・開催し、住民活動の拡充及び地元住民の意識向上に取り組む。

渡辺直由市長のコメント

本市は岐阜県の中南部に位置し、市南部を流れる木曾川は飛騨木曾川国定公園「日本ライン下り」の景勝地としても知られ、また古くは中山道太田宿として栄えてきました。本地区はかつての街道の情緒ある景観を今に残す地域で、以前から歴史的文化遺産を活用した観光の復興に取り組む市民活動が盛んな地域でもあります。この賞を励みに、これからも市民にとって住みやすいまち、市外の人からは住んでみたいまち、魅力あるまちと言われるようなまちづくりに取り組んでまいります。

NPO法人宿木理事長

佐光重広氏のコメント

江戸時代の面影を残す中山道 51 番目の宿場である太田宿をかつての賑わいを戻すため、中山道沿いの商工業者を中心に文化、歴史、景観等守る活動を行ってきました。私たちの夢であった太田宿中山道会館がまちづくり交付金により整備され、NPO法人宿木が市で初めての指定管理者として平成 18 年 4 月から運営管理し、市の魅力を伝える観光・交流・文化施設として年間 30 以上のイベントを開催し集客に努めています。今後は、地域の宝物を磨きだし、他団体との連携や活用により高齢者と若者が交流するまちづくりに取り組んでいきたいと思っています。



▲重要文化財旧太田脇本陣林家住宅



▲太田宿中山道会館

(会館内展示室)



(賑わう風景)



▲おん祭りのかも秋の陣



▲中山道まちなみ整備事業



▲神明ポケットパーク

▲(仮)かわまち広場